釧路製作所60周年記念特集

その先の、その先へ
～100年企業への道～

橋りょうメーカーの（株）釧路製作所は、今年創立60周年を迎えた。「守りから挑戦する企業へ」をスローガンに掲げ、会社＝人という考えを主軸とした新たな構想を築き、釧路を代表する企業になるべく動き始めた。次なる挑戦、”100年企業”への舵取りを担う、新名（しんみょう）社長にお話を伺った。
（聞き手:釧路新聞社代表取締役社長　星　匠）

㈱釧路製作所　代表取締役社長　新名弘人（しんみょう・ひろと）
昭和29年千歳市生まれ。54年入社。平成17年6月取締役総務部長、18年4月取締役釧路工場長、22年6月から現職。阪神タイガースと日本酒をこよなく愛す。

―スローガン「守りから挑戦する企業へ」の意味するものとは何ですか？

新名　創業以来、橋りょうの製作・架設を専業としていましたが、10年程前、「コンクリートから人へ」が合言葉となった時期、経営が不安定になりました。3年程前から、出資していただいている株主様と連携して立て直しを図り、経営も安定してきました。これまでの「守りの経営」から、先を見据えた成長戦略を立て、「挑戦」する段階に来ています。私は常々社員に「環境の変化に敏感になること」「変化することで、これまでと違う価値観が出てくるが、それを恐れないで進めていくこと」と言っています。スローガンには、社員、お客様、地域の皆様に対して、これからの釧路製作所の方向性を含むメッセージを込めています。

―具体的にどんなことに挑戦していきたいですか？

新名　当社は技術を持った会社です。技術は人がつないでいきます。技術をつなでいくために、安定した雇用を確保すること、リーダーシップを発揮できる人材を育成すること、つまり将来の幹部を育てることなど、人に投資していくことが重要です。また、60年間培ってきた技術・技能を生かし、事業面積を広げていきたいと考えています。中でも得意とする溶接技術を活用できれば良いですね。

―「守りから挑戦する企業へ」という社風が完成すれば、地域にどのような影響がもたらされますか？

新名　「釧路製作所」の存在を認知していただき、その上で、釧路にも「生懸命に、挑戦し続けている企業があるという姿を見せることが、地域活性化の第一歩ではないかと考えています。

―清掃活動など多くの地域貢献をされていますね。かなり認知度も上がってきているのでは？

新名　まだまだ道半ばです。一般市民の方から小学生まで、当社は積極的に工場見学を受け入れておりますが、そこで初めて「釧路製作所って橋を造っているんだ」という声をいただきます。スケッチに来た小学生にも、「機関車が置いてあるだけの会社」と思われているようですから、少しずつ認知度を高め、子どもたちが将来働いてみたいと思ってもらえるような会社になれると最高です。

―60年という歴史は、どのようにお考えですか？

新名　先達が綿々とつないできた技術力や、品質に対する思い・誇りには感謝していますし、私たちも後世につないでいかなくてはいけないと思っています。橋りょうの架設現場では、「今回は釧路製作所だから安心」という声をいただいています。これは大変うれしいことです。品質に対する誇りや、技術の伝承がうまくいっていると感じます。

―60年の中で、よかったと思われた瞬間は？

新名　日本の最東端にある橋りょうメーカーが、本州と四国を結ぶ瀬戸大橋の施工に携わったことは、非常にうれしいことです。

―全国規模で釧路製作所の橋りょうが使われているということですね。地域にとっても釧路という名前が広がって良いなと思いますが？

新名　今の釧路は、夕日をはじめとする観光ですでに名は通っていますが、工業製品でも全国に名が通るのは非常にうれしいことですし、釧路のPRにも一役買っていられるとすれば幸いです。

―釧路ではどのような存在でありたいですか？

新名　釧路には存在感のある企業がたくさんあります。当社は、まだまだ努力が足りないと感じています。いずれは「釧路と言えば釧路製作所」と名前が出てくるような存在感のある企業になりたいです。

―釧路の経済の現状についてどのように捉え、その中で釧路製作所が担うことは何だとお考えですか？

新名　交通インフラを整備し、もっと人・モノの行き交う環境を作ることが、重要な課題だと思います。それを契機としてある程度整えば、釧路は世界遺産も有する魅力的な土地ですので、経済状況が良くなる可能性は非常に高いと思います。人が集まれば、需要が発生します。この地に若者を留めるために、一つの雇用の場としてあり続けることが、当社の役割です。そのために、今以上に企業価値を高めなければいけません。

―釧路経済の発展のために近隣企業とはどのような関係性が必要でしょう？

新名　釧路の企業は、当社を含め自社のことで精一杯かもしれませんが、将来釧路経済を活性化させるために、異業種の企業と情報の共有ができればと考えます。見方が変わりますし、新しいアイデアが生まれます。並行して、域内でお金が循環する仕組みを模索したいです。

―人材雇用・育成の重要性とは何でしょう？

新名　社員同士が活発にコミュニケーションを取り、笑いがあり、そうした環境が望ましいです。企業は人で成り立ちます。人を育てることが、将来の人材確保にもつながっていくでしょうし、「入ってみたら良い職場だ」「この会社に入りたい」という思いも人材確保につながります。第三者から見ても、そのような会社になりたいです。

―研修会などの社内教育にもかなり力を入れていますね？

新名　特にここ2～3年は集中して取り組んでいます。「さぁこれからだ」という気持ちを社員に徹底させ、再建から再生へとステージが変わったことの認知も含め、社員には定期的に研修を行っています。将来的には、リーダーシップを発揮できる人材を作り上げ、釧路製作所の新たな文化や風土を創ってほしいと考えています。

―その中で「5S推進プロジェクト」を実施していると聞きましたが。

新名　部署間を超えて小人数で構成され、合議で〝カイゼン〟活動を行う小集団活動を会社が承認し、必要に応じてその都度組織させています。社員のリーダーシップやマネジメント能力を育成するために部門横断的な小集団を設置し、社員の主体的な解決行動を行えるように支援しています。その活動の一つが、「5S推進プロジェクト」です。各部署から数人が集まり、コミュニケーションを密にし、自分たちで解決して周知していくシステムです。意見を募る「ゴーエスBOX」の設置や刊行物「月刊ゴーエス」も発行し、目に見える成果を上げています。私から見ると、別の部署がひとつ出来上がったような感覚で非常に頼もしいですし、このような活動がもっと増えれば、と期待しています。理想は「自発的に」社員からの提案でプロジェクトができ、問題を解決することです。自分たちで考え、自分たちで動くようになると、会社に来るのが楽しくなると思います。

―5S（整理・整頓・清掃・清潔・躾）は会社にとってはとても重要なことですね。

新名　最初は3S（整理・整頓・清掃）からのスタートでした。当社はいわゆる3K（きつい・汚い・危険）企業ですから、安全な作業場を確保するためには3S・5Sは大事なことです。

―他の企業にも参考になるようなお話、本日はありがとうございました。最後に、一言お願いします。

新名　100年企業に向け、今までの3K企業から脱却していかなければいけないと思います。私の考える新たな3K企業は、「（納得のいく）給料・（十分な）休日・（明日への）希望」が目標です。特に、希望を持つことはとても重要なことです。当社の場合、橋が一本架かれば、多くの人や車が行き交う状況を目の当たりにする事ができ、「自分たちがこれを作った」という達成感を味わえます。それだけ自分たちがマチに貢献していることが理解されると、希望が持てるのではないでしょうか。100年続いている企業は、数多くありますが、同じことだけを続けていけるわけではありません。当社は橋を造っていますが、その傍らで違うことにも取り組まないと100年は続けられません。引き続き、地域貢献をさせていただきながら100年企業を目指して前へ進んでいきます。

橋をつくっています。

1981　久寿里橋
橋から見える、幣舞橋にかかる夕日はとても綺麗。

Gco・113.6×22.0m、456t（JV）

Bco・138.0×（11.5～18.5m）×2、1,037t（JV）

1996　旭橋
整備された釧路川沿いが臨めます。
街灯の灯りを眺めながら夜の散歩をしている方も。

2016～　240号橋
道東道（阿寒IC）に係る新たな橋。

わたしたちは、日本の最東端にある橋りょうメーカーです。

道と道とをつなぐ、橋。
川を跨ぎ、谷を越え、海を渡り となりの街へ、離れた島へ、大事な人のもとへ。
皆様の歩む道を、そっと支えたい。
橋づくりを通して、道と道、人と人とをつなぐ企業へ。
私たちは、挑戦し続けます。

おかげさまで60周年
株式会社 釧路製作所
http://www.kushiro-ses.co.jp/

守りから挑戦する企業へ。